

Q12

妊娠出産年齢層の女性に風しんワクチン（麻しん風しん混合ワクチンもしくは麻しんワクチン）を接種する場合、特に注意することがあるでしょうか。

A

妊娠していない時期（生理期間中またはその直後がよい）にワクチン接種を行い、その後2カ月間避妊するよう注意する必要があります。誤って妊娠3カ月以内に風しんワクチンを接種した時のワクチンウイルスによる先天性風疹症候群（congenital rubella syndrome : CRS）の出生は報告としてはありませんが、理論上のリスクを回避する意味で、妊婦は麻しん風しん混合ワクチン、麻しんワクチン、風しんワクチンの接種不相当者であることに変わりありません。

ただし万が一妊娠していることに気付かずこれらのいずれかのワクチンを受けてしまった場合でも、そのリスクの低さから妊娠を中断する必要はありません。

コスタリカでは、平成13年（2001）5月に、15～39歳の男女に麻しん風しん混合ワクチンの全国的な接種キャンペーンを実施しましたが、妊娠していることに気付かずワクチンを接種した妊婦について、流産、死産、未熟児、低出生体重児、CRSの有無についてOR（95%CI）を計算したところワクチン接種との間に関連はなく、出生児の中に、CRSの児はいなかったと報告しています（Badilla Xiomara, et al : Fetal Risk Associated With Rubella Vaccination During Pregnancy. Pediatric Infectious Disease Journal. 26 (9) : 830 - 835, 2007.）。（参照 p14, Q10 p25, Q9）